

国際教育会議 Going Global 3 に参加して

日時: 2008年12月4・5日
於: ExCeL London

丹羽 泉

- * Going Global 3:
the UK's largest international education
conference
- * British Council:
the UK's international organisation for
cultural relations and educational
opportunities

- 2008年12月4、5日の両日、ブリティッシュ・カウンシルの主催で高等教育関係の国際会議である”Going Global 3”がロンドン(ExCeL London)の国際会議場で開催され、英国及び世界各国から800名を超える参加者が集まり、総会及び分科会に分かれて討議が行われた。
- 参加者は英国の大学及びカレッジ関係者が多数を占めたが、各国の高等教育機関、高等教育の質保証に関する機関、政府機関からの参加もみられた。

Theme

- Institutional collaboration and partnership
- Student mobility and international student recruitment
- The role of international education in promoting entrepreneurship
- Employability
- Internationalisation

Highlight Sessions

- Education and Economic Development: Engaging the New India
- Forecasting international student demand
- Capitalising on China's digital cultural explosion
- Setting language standards in HE
- The global research business
- The global credit crunch: boom or bust for international education?

感想

- 英語圏が中心
- インターナショナル・マーケットとしての大学
- 目に見える指標から 目に見えにくい指標へ

→「カリキュラムの国際化」「グローバル市民としての意識」「共同研究の促進」

→「質保証」「トップレベル大学との戦略的連携」「大学の付加価値化」「同窓生のネットワークの活用」

・優秀な人材の確保・選別

→インド・中国への関心

→英語能力・教育効果

・英国人学生の国際化

→送り出しへのプロモーション

課題

- 米国・英国等、英語圏の動向
- EU等非英語圏の動向
- 日本固有の課題
- TUFS固有の課題
- 理系か文系か
- 学部教育(高度職業人養成)か若手研究者養成か
- 戦略的アプローチの必要性

TUFSの検討課題

- 立地条件の優位性
- 英語力強化のポテンシャル
- 日本語・日本文化カリキュラムの充実
- PCS等の英語プログラムの充実・拡大
- サマープログラム等も含めたセメスター単位のショート・ステイのスキームの構築
- 非協定校留学生の受入れと有料化の模索
- 受入れと派遣の戦略的目標の明確化
- ジョイント・ディグリー等の実現